令和2年度

文化芸術による子供育成総合事業 ―巡回公演事業―

演芸公演

神田桜子

三笑亭可風

小助・小時

神田鯉栄

「文化芸術による子供育成総合事業 ―巡回公演事業― 」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

文化庁

制　作

公益社団法人 落語芸術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30　芸能花伝舎2階　公益社団法人 落語芸術協会

TEL:03-5909-3080　FAX:03-5909-3082

ホームページ　www.geikyo.com　　Eメール　info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか　りょうこ

知ってますか？　～ 10月１日は「国際音楽の日」です ～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月１日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月１日を「国際音楽の日」と定めています。

◎講談って何?①

講談とは、日本の伝統芸能のひとつで、落語と並んで寄席で楽しむことのできる話芸です。

落語も講談もお寺のお坊さんの説法が元で、「楽しい」「笑える」ということに重点を置き、会話形式で進行するのが落語、話を面白く「伝える」ことに重点を置き、説明の入るものが講談です。

落語は「話す」といいますが、講談は「読む」と表現します。特徴を表していますね!

◎講談って何?②

赤い毛せんの上に座布団、前には釈台、講談師の手には張り扇…。

講談師の口から語られるのは、まるで本人がそこにいて見てきたかのような臨場感溢れるストーリー。

古い時代のお話が多いので、古風な言葉遣いや台詞回しもありますが、日本講談協会では、小中学生の皆さんにも聞いてもらいたいと思い、親しみやすい講談を目指し工夫してお届けしています。

◎寄席のいろいろ

寄席というのは人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。今から200年前に常設寄席（定席）が始まりました。

江戸時代には200軒あった寄席ですが、現在では都内に4軒残っています。

寄席では落語や講談の話芸と、色物と呼ばれる曲芸等『見て楽しめる』ものが次々と登場します。

寄席の一日は太鼓で始まります。

開演の30分前に「一番太鼓」が鳴ります。（**ドンドンドントコイ、ドンドンドントコイ**）と打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直前には「二番太鼓」が鳴ります。（**オタフクコイ、オタフクコイ**）と打ちます。着倒とも呼ばれる太鼓でまもなく開演です。出囃子と共に開口一番、前座さんの登場です。その後も仲入り（休憩）の太鼓、トリ（一番最後に出る方）が終わると追い出し太鼓を打ちます。別名「薄情太鼓」とも呼ばれ、（**デテケ、デテケ**）と打ち、これで寄席の一日が終わります。

実はこの太鼓、落語家や講談師の前座さんが叩いているのです。

神田 鯉栄（かんだ りえい）

小助・小時（こすけ こと き）

三笑亭 可風（さんしょうてい かふう）

神田 桜子（かんだ さくらこ）

番組

お囃子　斎須 祥子

前座　桂 南太郎

学校代表 講談

一、講談　神田 桜子

一、落語　三笑亭 可風

仲入り（休憩）

一、太神楽曲芸　小助・小時

一、講談　神田 鯉栄

●日本講談協会

平成3年に二代目神田山陽が弟子を引き連れ講談協会を脱会、日本講談協会を設立。

二代目山陽は従来の固定観念を捨て改革に臨み、女性の弟子も多く取った。惜しくも2000年に死去したが、その精神を受け継いだ弟子は講談界に留まらず多方面に活躍を続けている。

現在、所属講談師は22名。半数以上が公益社団法人落語芸術協会にも所属し、都内各寄席にも多数出演。

その他全国各地での会館や学校で主催される演芸会やイベントに出演し、講談の普及や広報活動に尽力している。

バク助

〔落語芸術協会のマスコットキャラクター〕

●公益社団法人　落語芸術協会

公益社団法人落語芸術協会は、寄席芸能を広く普及し後生へ伝える為、昭和5年10月に日本芸術協会として設立。

昭和52年12月に法人許可され「社団法人落語芸術協会」と改称。

平成23年4月に「公益社団法人 落語芸術協会」と改称。

噺家と色物（曲芸・漫才・奇術・紙切り・俗曲等）お囃子を入れ、会員数250名（令和2年現在）の大所帯である。

当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席（落語会）の企画制作を行い、落語の普及に尽力している。

また、寄席以外に継承にも力を入れ、年間約90ステージに及ぶ若手による落語会を催している。

現在、会長の春風亭昇太のもとに演芸関係のリーダー格として位置付けられている。

協藝

〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-12-30
芸能花伝舎2階
公益社団法人　落語芸術協会
TEL.03-5909-3080　FAX.03-5909-3082
www.geikyo.com
info@geikyo.com